

あきたかた酪農振興会 11/5 北広島町・吉川牧場



あきたかた酪農振興会
「キヤリロボに興味」
飼料イネの今後の進め方を検討

あきたかた酪農振興会(会長 泉秀利)は、ミルクの持ち運びが楽に行えるキヤリロボを視察するため、北広島町(旧・芸北町)の吉川牧場を訪問した。

吉川栄樹氏からキヤリロボの説明を受け、熱心に聞き入り、「若うならんのじゃけー、考えにやーいけんのー」と現状の労働環境改善を進めたいとする意見もあり「自動でなくても、簡易的なレール等を取付けて移動出来たら楽」等と話しながら、自らの経営に活かせないかを模索される様子もあった。

その後、広島北ホテルに移動し昼食をとりながらの話題で、泉会長から飼料イネの今後の進め方

について話題提供され、会員の考えを聞かれた中で、今後の地域法人には、安芸高田市の産業課にも相談して前向きな検討に入りたいとの見解が示され、今後の同会によるテーマが明確になった感じを受けた。

安佐南区民祭・農業祭 11/3 広島市



「消費者に牛乳
乳製品をアピール」

安佐南区民祭・農業祭が安佐南区民センターであった。この内、農業祭では地域の酪農家三戸が、牛乳・乳製品の消費拡大のため出店し販売にあたった。あいにく一日中の雨天ではあったが、平奈岐佐組合員による来場者への積極的な呼びかけもあり、予定の乳製品を完売することができた。

今回の販売活動にあたっては、酪農家自らにより牛乳販売や試飲を勧めたことから消費者への反響も大きかった。

双楽会 11/15 三次市親水公園

グラウンドゴルフ大会で
リフレッシュ
友重誠さん初優勝

双楽会(会長 温泉川寛明)は、毎年恒例のグラウンドゴルフ大会を開催し、三十一名の参加があった。

今大会初めて優勝の栄に輝かれた友重誠さんは満面の笑顔であった。

この他、小迫和喜さんによるホールインワンの好プレーが出るなど、大変盛り上がった。その後、会場を移した懇親会では、温泉川会長が「十月から乳価値上げが実現したが、自分達の希望には届かなかった。しかし、手取額が約三円のプラスとなった。これを励みにして頑張ってくださいませ」と挨拶し懇親を深めた。

会は終始和気藹々の中、参加者は日頃の疲れを癒しリフレッシュされていた。





西部ミルク会

11/16 池田牧場

整う管理体制に感銘

西部ミルク会(会長 砂子靖子)は、府中市上下町の池田牧場を視察し、会員他十六名が参加した。同牧場では小川香奈さんから牧場概要を聞いた。

同牧場は、整理・整頓が行き届く牛舎環境とともに、酪農作業において、ご家族誰もがどのポジションでもこなせるような体制を敷かれている点に感動の様子であった。

手作りアイスも振る舞われ、その後、一行は矢野温泉あやめで懇親会を開き、鈴木道弘専務(広酪)から酪農情勢の報告を受けた。

千代田町酪農協議会

11/16 北広島町

地元産農産物レストランで会食

千代田町酪農協議会(会長 西原嘉一)は、10月にリニューアルオープンした北広島町産品を販売する「道の駅舞ロード」で研修会を開催し、11名が参加した。

8月にプレオープンした産直コーナーでは野菜や牛乳等が販売され、土曜とあって来客者も多かった。道の駅を見学した会員らは、地元産食材を利用したバイキング形式のレストランで会食し、柿原徳則理事(広酪)から酪農情勢報告を受けながら懇親を深めた。レストランでは地元産野菜の他、地元の酪農家が生産した県北搾り牛乳や牛乳ソフトクリームもあり好評であった。



北広島町酪農団体連絡協議会

11/28 北広島町

依然と厳しい酪農窮状から 支援を要請

北広島町酪農団体連絡協議会(会長 東方田忍)は、会長他五名が、北広島町に対して酪農窮状支援要望書を町長と議長に手交した。

要望内容は、既存の各種畜産関連事業の継続と、
①酪農経営コスト上昇救済支援、②自家育成牛増頭推進事業、③畜産防疫対策事業、④畜産飼養施設増改築等支援事業で、加計議長は「国は経済緊急対策として四兆円を計画している。この予算を上手に使いたい」と話され、箕野町長は産業課長へ国等の予算活用を検討を指示された。



甲奴・三原の女性部 広大に沖田獣医師を訪ねて



甲奴郡酪農女性部(部長 溝辺博子)と三原市酪農女性部(部長 岡田吹子)の18名は、以前、東部管内でお世話になっていた沖田美紀獣医師を訪ね、東広島市にある広大内の西条ステーション(農場)に出向いた。沖田獣医師は、現在「助教」となられている。現地では、当時と変わらず親しみのある沖田助教に出迎えられ、感動の中でサイレージタワーや放牧場、そして飼料給餌機による飼養管理の

見学を行った。また搾乳施設では、搾乳ロボットの手順に従った搾乳が行われる様子を視察した。

農場内に分別された、搾乳牛・乾乳・育成・和牛など、我が家の牛舎と比較しながら先生に質問や冗談を交わし、牛舎内の説明を終えた。

その後、広大を後に八本松に移動し、先生を囲んでの会食会では、懐かしい話や身の上話に花が咲き、上品な「おもてなし美乃」での会食膳やお店の雰囲気感激しながら素敵な時間を過ごされた。視察研修がこんな形で行えたのも、当時、交流のあった沖田助教とお母さん達の信頼関係が今でも続いているからと感じられた。

再会を約束し、「酪農をしていたら、良いこともある」と元気をもらって、一行は帰路へとついた。

西部地域の後継者ら 飼養管理技術を学ぶ!!



西部楽酪会(会長 砂子拓也)は「乳牛の飼養管理」をテーマに研修会を開催し、会員ら十二名が参加した。この講師は、大島達夫係長(広酪事業推進課)があたった。

乳用牛の飼養管理の重要点として①サイレージの品質確保の対策、②脂肪のエネルギーを効率よく利用するには、炭水化物が必要③カルシウムは、生乳として体外へ排出され、粗飼料や濃厚飼料の含有量では、まかないきれないので、カルシウム剤の給与で補う事が必要、④除角の処置は生後十日前後に行えば傷口の範囲を最小限に抑制でき、かつ、ストレス軽減、

管理者による処置時間の低減に結びつく、⑤細菌数の低減には、日々使うタオルからの細菌数増加を防止するため、熱いお湯で洗い、しっかりと乾燥させれば容易にタオルからの細菌数増加を防げる、⑥繁殖管理Webシステムなどに触れた。

参加会員は、興味津々の面持ちで研修し、学んだことを少しずつ取り入れて経営に役立てて行きたいとの決意も聞かれた。

後継者対策にも力を！ 庄原市長・議長に要望



庄原市酪農連絡協議会(会長 林智行)は庄原市を訪問し、木山耕三市長、竹内光義議長に要請書を手交した。この手交に、協議会から林会長の他、和田慎吾副会長、向田康浩委員が同行した。

要望事項は、庄原市の基幹産業を担う酪農家の安定的な経営の継続を図るため、①生乳生産対策、②防疫対策、③機械施設整備、④飼料確保対策、⑤担い手育成対策、⑥後継牛対策で、要望書手交には、庄原市側から神宮祥司副市長、赤木忠徳副議長が同席され、庄原市内の酪農に関心が示された。

今回の要請活動は、庄原市内の酪農家 30 戸の中で 19 戸に後継者が育っており、後継者からの意見を含め要請した。市長・議長からはともに「要望に応じて行きたい」との言葉が添えられた。

みかん狩りで親睦

来年もみかん狩りに興じましょう！



世羅郡酪農振興協議会(会長 内海利彦)は会員の親睦研修会と称して、恒例の『みかん狩り』を行った。当日は秋晴れで、絶好の「みかん狩り日和」であったが、会員四名とNOSA I担当者、広酪から樽好美子所長(東部事業所)の六名と会員の参加が少なく残念であった。

一行はレンタカーで因島の岡野農園に到着した後、『みかん狩り』に興じ、かごに貯まるみかんに笑顔がひろがった。

収穫みかんは車に積めるだけ詰め込んで、昼食をとって、大山神社・耳明神社でご利益と酪農経営の向上を願った。一行は、「来年も仲間を誘ってみかん狩りに来ましょう」と因島を後にした。